様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　23　年　4　月　22　日現在

機関番号：34310
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：20520079
研究課題名（和文）歴史批判と本文批評：聖書資料説の起源と「批判」概念の発生

研究課題名（英文）Historical criticism and textual criticism : origin of documentary hypothesis and birth of 'criticism'

研究代表者
伊藤　玄吾（ITO GENGO）
同志社大学・言語文化教育研究センター・助教
研究者番号：70467439

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学・思想史
キーワード：宗教思想史、聖書解釈の歴史

１．研究計画の概要

本研究の中心内容は、リシャール・シモンの著作『旧約聖書の批判的歴史』Histoire critique du Vieux Testament (1678;HCVT)における聖書研究の方法論の成立の過程を追うとともに、バルーフ・スピノザ『神学政治論』Tractatus Theologico-Politicus(1670:TTP)との比較を行い、後に聖書資料仮説を可能にした近代的「批判」概念・思想の発生を実証的に究明するものである。具体的には以下の作業を同時並行的に行っていく。

第一に HCVT のフランス語および英語版のデータ・テキスト化を進め、詳細なテキスト分析のための環境整備を行う。第二にリシャール・シモンの伝記的側面について調査するとともに、HCVT、TTP の成立の背景となった 16～17 世紀のフランスを中心としたヨーロッパのヘブライ語および聖書研究の流れを整理する。第三に TTP のスピノサの聖書テキストおよびマソラーについての発言の分析を行う。第四に HCVT の詳細な読解を行う。

以上の作業を経たうえで、最終的に HCVT, TTR の方法論を比較し、それがいかに後の聖書資料説および「批判」概念の発生につながっていったのか考察する。

２．研究の進捗状況

HCVT のデータ・テキスト化は英語版についてはほぼ終わっている。フランス語版については、様々なアクセント記号の問題や、17 世紀の現代とは異なる活字やスペルの問題、また初版テキストに多くのミスプリントがあることなどの問題から、技術的には英語版に比べ多くの困難があるものの、異なる諸版を参照しながら丁寧なデータ・テキスト化を行っている。またリシャール・シモンの伝記的側面に関する研究を Paul Auvray および Jean Steinmann による重要な伝記研究、およびシモン自身の著作や書簡などを参照し、HCVT が書きあげられた文脈をより明らかにするため、リシャール・シモンの東洋語学者、聖書学者としての道のりを比較的詳しい評伝の形でまとめる試みを行っているが、これは少なくとも国内においてリシャール・シモンについての初めての本格的紹介となり、聖書解釈史および古典文献学史を研究する人々にとって有用な資料となろう。またそれと並行して HCVT の中に引用される 16 世紀から 17 世紀にかけてのドイツ、フランスを中心としたクリスチャン・ヘブライストたちの系譜を整理しまとめる作業も行っている。彼らの文献学的研究の重要性はこれまでのギリシア・ラテンを中心にした人文主義研究では等閑視されていたが、実はそれがその後の歴史批判的思考の発展の上で極めて深く大きな役割を果たしていることを明らかにすることが今こそ必要である。こうした基礎作業の上で、本研究の中心の柱ともいえるスピノザの方法論とリシャール・シモンの方法論の比較が行われており、また 18 世紀以降

のジャン・アストリュックを中心としたその後の聖書資料仮説の発生と発展を跡付ける作業も行われている。

３．現在までの達成度
③やや遅れている
（理由）
2010 度の研究代表者変更により、当初の予定よりわずかの遅れが出たが、(1) HCVT のデータ・テキスト化の大部分、(2) TTP におけるスピノザの方法論についての考察、(3) HCVT 成立の文脈を示すリシャール・シモンの伝記的な側面に関する重要資料の収集と整理、16－17 世紀のヘブライ学者の重要文献の収集と整理および分析の多くの部分が達成されている。

４．今後の研究の推進方策
（１）HCVT の残りのテキストのデータベース化とその最終的なチェックを外部協力者と共に推し進める。
（2）これまで国内外で収集した資料をもとにリシャール・シモンの伝記的側面、およびその前後の重要な聖書学者との関係、および彼を敵視した知識人の方法論をまとめた論文の作成を行う。
（3）さらに HCVT のテキスト研究と、本研究の最初の 2 年の研究代表者による主にスピノザのＴＴＲに関する研究とのつき合わせを行い、聖書解釈の場を通しての近代的「批判」概念の発生の具体的な過程についてまとめたい。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）
①伊藤玄吾「フランスの初期人文主義者たちとユダヤ研究―ギリシア語研究とヘブライ語研究の“危険な関係”」、京都ユダヤ思想、創刊準備号、2010、62~69、査読無
②Gengo ITO, « Antiquité et le progrès de la métrique dans les traductions ‘érudites’ des psaumes au XVIe siècle », *Traduction et Critique*, Actes du Colloque international pour commémorer le 500ème anniversaire de la naissance d’Etienne Dolet(1509-1546), 2009, 189～201, 査読有
③手島勲矢「スピノザの聖書解釈の特異性について―16・17 世紀クリスチャン・ヘブライストとの関係で」、スピノザーナ、9、2008、83～90、査読無

〔学会発表〕（計 2 件）
①手島勲矢、「二種類の名前について：聖書解釈から考えるユダヤ思想の特性」、京都ユダヤ思想学会、2009 年 5 月 31 日、同志社大学神学館
②手島勲矢、「タナッハの構造分析と高等批評のユダヤ教観」、日本旧約学会、2008 年 10 月 27 日、日本聖書神学校

〔図書〕（計 3 件）
①伊藤玄吾（田口紀子、吉川一義編）、『文学作品が生まれるとき―生成のフランス文学』、京都大学学術出版会、2010、21～51
②手島勲矢、『ユダヤの聖書解釈―スピノザと歴史批判の転回』、岩波書店、2009、375
③手島勲矢、『ユダヤ人と国民国家：政教分離を再考する』、岩波書店、2008 年、71～111